

Kindai Hospital Today

vol.17

平成27年
2月発行
vol.17

金沢大学附属病院
〒920-8641
金沢市宝町13-1
TEL.076-265-2000

金沢大学病院ニュース

病院長 ご挨拶

病院長 並木 幹夫



皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。正月休みに1年のお疲れは取れましたでしょうか？もちろん、正月も勤務があった方も少なくなかったとは思いますが、多くの皆様は久しぶりに家族団欒で、リフレッシュできたのではないかと思います。私達の喜びは何でしょうか？大部分の方は家族の健康と答えられると思います。私達医療人は、多くの患者さんに安心を提供しなくてはなりません。今年も患者さん、そしてそのご家族に方の信頼に答えられる病院でありますよう、どうぞよろしくお願いたします。

昨年末、病院情報システムが更新されました。電子カルテは、職種を超えて患者情報を共有する最も大切なチーム医療の要です。今年は5月に病院機能評価を控え、特定共同指導を受ける可能性も高いですので、電子カルテの正しい活用を各部署で徹底していただきたいと思ひます。

昨年末、大阪の某病院で信じられないような薬剤の伝達ミスで1人お亡くなりになりました。また、某大学で術後多くの患者さんが亡くなったことが大きなニュースになりました。これらのことは他人事と捉えるのではなく、他山の石として私達の診療の教訓としなくてははいけません。昨年、私が病院長になってから難問が次々現れましたが、皆様のご尽力で、難題はひとつ、ひとつ改善に向かっています。但し、まだ難問は山積しています。しかし、ピンチを克服すると、それがチャンスに変わります。毎月寄せられるインシデントレポートをもとに、その都度、診療の改善が図られています。大切なことは、日常診療で起こる様々な出来事の情報、皆で共有する事だと思ひます。身分、職種を超えて何でもフランクに語り合え、そしてお互いを尊重し合えるような金大病院であることを願っています。

3月から北陸新幹線が金沢まで延伸し、東京が近くなります。金大病院に魅力が無ければ、医師や患者さんは関東に行ってしまうかもしれません。しかし、これもピンチはチャンスと捉え、逆に関東から新幹線「かがやき」に乗って患者さんが集まり、医療関係者が働いてみたいと思ひ病院を目指そうではありませんか！

プロフィール

- 診療科
泌尿器科
- 好きなスポーツ
テニス、その他何でも
(スポーツ評論家になりたかった)
- 好きな言葉
苦中在樂
Live locally, Grow globally

副病院長・病院長補佐の紹介

平成26年度より副病院長・病院長補佐に就任された12名の方に、①副病院長・病院長補佐の担当分野、②診療科・所属、③好きなスポーツ、④好きな言葉、⑤一言・抱負を聞きました。

副病院長

山岸 正和

YAMAGISHI Masakazu



- ① 診療・臨床教育担当
- ② 循環器内科
- ③ 何でもOK
- ④ 備えよ常に
- ⑤ これまでは、教室関連の診療、研究、教育が主たる業務でしたが、診療・教育担当の副病院長

として金沢大学附属病院のバランスのとれた発展のための責務を改めて感じています。言葉と行動に責任を持って業務にあたっています。

中尾 眞二

NAKAO Shinji



- ① 研究担当
- ② 血液内科
- ③ 野球、ラグビー、アメリカンフットボール
- ④ 一意専心
- ⑤ 質の高い臨床試験がいかによく行われているかによって病院

の評価が決まる時代になっています。本院の臨床試験・研究が適正かつ活発に施行されるように、臨床試験審査委員会委員長として尽力したいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

長瀬 啓介

NAGASE Keisuke

- ① 経営管理担当
- ② 経営企画部
- ③ 最近機会がありませんがダイビング、厳しくない程度の山歩き
- ④ 照于一隅(天台法華宗年分学生式) 小事に忠実な人は、大事にも忠実である。(ルカ16:10)
- ⑤ 好きな言葉というのは、自分がいかにそこから離れているのかを思い、戒めるためのものと思います。目の前で起きていることから、社会・未来を見据えたことまでの広い視点でかかわってまいりたいと思います。



谷内江 昭宏

YACHIE Akihiro

- ① 安全管理対策担当
- ② 小児科
- ③ サッカー、テニス、野球など、いずれも観戦のみ
- ④ Think Zebra!
- ⑤ 医療機関において、インシデント・レポートに始まる医療安全対策の重要性はますます高まっています。より良い医療を実践するためだけでなく、安全で働きがいのある医療現場を実現するために皆さんと協力して微力を尽くしたいと思います。



山田 正仁

YAMADA Masahito



- ① 人事・労務担当
- ② 神経内科
- ③ フィットニング(アラスカまで行ったことがあります)、スキー、水泳、弓道ほか。
- ④ 特に座右の銘というものはありません。事に当たっては正面から全力で取り組みます。

⑤ 先ず、人間性あふれる信頼される病院でありたいと思います。そして、大学病院の使命である世界トップ水準の診療、その基盤となる研究・教育を強力に推進し、未来の医療を担う人を育てます。

杉山 和久

SUGIYAMA Kazuhisa



- ① 広報・地域医療連携担当
- ② 眼科
- ③ 旅行、スキー、山歩き
- ④ 和の精神。寛容の心。後悔しない人生
- ⑤ 広報・地域医療連携担当の副病院長を拝命しました。金沢大学病院の優れた医療技術、新しい手術、検査などを北陸地域の病院、診療所の先生方、患者様に発信し、病診連携のネットワークの向上に努めたいと思います。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

吉崎 智一

YOSHIZAKI Tomokazu



- ① 総務・法令遵守担当
- ② 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ③ 野球、スキー
- ④ 人の価値とは、その人が得たものではなく、その人が与えたもので測られる(アルバート アインシュタイン)
- ⑤ 医師になって四半世紀、信頼関係に基づき阿吽の呼吸をよとした医療環境から、説明、同意、契約などに基づく医療環境へと大きく変化しました。標準化、マニュアル、ガイドラインなどが大切なことは十分ふまえた上で、「懐の深さ」や「血の通った」という形容がふさわしい医療が好きです。

づき阿吽の呼吸をよとした医療環境から、説明、同意、契約などに基づく医療環境へと大きく変化しました。標準化、マニュアル、ガイドラインなどが大切なことは十分ふまえた上で、「懐の深さ」や「血の通った」という形容がふさわしい医療が好きです。

崔 吉道

SAI Yoshimichi



- ① 薬剤担当
- ② 薬剤部
- ③ テニス、スケート
- ④ ありがとう
- ⑤ 平成26年5月に薬剤部長・薬剤担当副病院長を拝命いたしました。院内全ての医薬品の適正使用と安全管理に責任を持ち、本院の薬物療法の安全性と有効性、患者さんのQOLの向上に努めてまいります。

と安全管理に責任を持ち、本院の薬物療法の安全性と有効性、患者さんのQOLの向上に努めてまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

小藤 幹恵

KOFUJI Miki

- ① 看護担当
- ② 看護部
- ③ バドミントン
- ④ 石不言 花不語
- ⑤ 看護担当として、院内各部門と連携し、わかりやすく痛いことの少ない心温まる看護を充実させていきたいと考えております。そして、若手女性職員を支えてくださる多くの方々に感謝しながら、いつも患者様の傍らに在る看護の働きを通して安心して療養して頂けるよう努力したいと存じます。どうぞよろしくお願ひします。



長谷川 篤志

HASEGAWA Atsushi

- ① 事務担当
- ② 事務部
- ③ 水泳、スキー
- ④ 思いやり
- ⑤ 人生5回目の年男でいよいよ還暦を迎えます。大学病院の社会的な役割、存在意義を問われる中、大学職員生活38年の集大成として全力投球で物事に挑戦的に取り組んでまいりたいと思っております。



病院長補佐

蒲田 敏文

GABATA Toshifumi



- ① 病院機能評価
- ② 放射線科
- ③ バasketボール
- ④ 一期一会
- ⑤ 平成25年6月に放射線科の教授に就任しました。画像診断、画像下治療(IVR)、放射線治療を担当しています。放射線科は大学病院の全科の医師から依頼をうけて画像診断と治療を行っています。患者様ならびに各科の医師から信頼されるような診療科になるようにスタッフとともに頑張りたいと思います。また、本年5月に予定されている病院機能評価のタスクフォースリーダーを拝命いたしました。機能評価への対応を通じてより患者様にやさしい医療を提供できるように改善に努めていきたいと考えております。

担当しています。放射線科は大学病院の全科の医師から依頼をうけて画像診断と治療を行っています。患者様ならびに各科の医師から信頼されるような診療科になるようにスタッフとともに頑張りたいと思います。また、本年5月に予定されている病院機能評価のタスクフォースリーダーを拝命いたしました。機能評価への対応を通じてより患者様にやさしい医療を提供できるように改善に努めていきたいと考えております。

絹谷 清剛

KINUYA Seigo



- ① 特定共同指導(大学病院や特定機能病院に対して、厚生労働省、地方厚生局、県の3者が、保険診療を適切に行っているかチェックするものです)
- ② 核医学診療科
- ③ 学生時代はラグビーをやっていました。いまは、椎間板ヘルニアのため、左足の筋が萎縮してしまい走れません。現在、医学類ラグビー部顧問を務めています。

現在、医学類ラグビー部顧問を務めています。
④ 「やってみせ、言ってみせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。」山本五十六言
⑤ 来年度本院に入ると想定される特定共同指導の準備をするように仰せつがっています。このような指導がなくても、適正な診療をすることは当たり前ですので、これを契機として、全職員が意識できる環境を整えるために、みなさんと力を合わせたいと思います。

がんとうまく付き合おう がんサロン『ハーモニー』

仲間と出会い語り合いたい、体験に基づく様々な情報を得たい、医師など専門職からお話を聴きたい…そのような時、金沢大学附属病院のがんサロン『ハーモニー』へお越しください。

- 日時** 原則第3水曜日、午後2時～午後3時半
※途中の出入りは自由、予約不要
- 場所** 金沢大学附属病院 病棟10階テイルーム
- 開催案内** 外来や病棟、病院ホームページに案内を掲載します。

前半
30分

専門職からのお話です。『がんと共に長生きするために』医師、『体重管理のバロメーター』管理栄養士、『がんで使うお薬のこと』薬剤師など毎回異なるテーマでお話します。

後半
60分

おしゃべり会です。
参加された方が自由に語り合う会です。
毎回20名前後の方が参加されます。

【問い合わせ先】 金沢大学附属病院 がん相談支援センター
電話：076-265-2040(直通)
受付時間：平日午前9時～午後5時



会場の様子

お気軽にお越しください！
お待ちしております。

体験や情報を分かち合いましょう!!



医療福祉相談・がん相談のご案内

地域医療連携室では、患者さんやご家族が安心して療養し、安定した社会生活が送れるよう、看護師と医療ソーシャルワーカーが様々なご相談に応じています。

ご相談の内容によっては、医師、看護師、薬剤師などの院内医療関係者、また院外の医療機関、在宅支援機関などの関係機関の方とも連携し、対応致します。

また、がん診療連携拠点病院の「がん相談支援センター」として、がんに関する相談にも対応しており、がんに関連する情報誌の提供や社会保険労務士による就労相談(予約制：毎週水曜午後1時～4時30分)も行っています。

●例えば、こんなご相談をお受けしています。

- ・各種社会福祉制度のご相談
- ・退院や療養生活に関するご相談(在宅医療支援や転院など)
- ・がんに関するご相談
- ・その他、社会復帰(就労、就学等)や患者会などに関するご相談 など

※相談をご希望の方は、地域医療連携室・がん相談支援センターまたは主治医、看護師までお申し出ください。
ご相談に関するプライバシーは厳守致します。

【問い合わせ先】 地域医療連携室・がん相談支援センター
電話：076-265-2040(直通)
受付時間：平日午前9時～午後5時



金大病院CPDセンター

平成25年春、石川県の地域医療再生計画の一環として、本院外来診療棟4階に設置された「金大病院CPDセンター」。この施設は、県内における医療人の育成、専門職能力開発、生涯学習の充実に目的として設置されました。能登北部等の遠隔地からでもカンファレンスに参加できるテレビ会議システムや、最先端のバーチャルシミュレーターを用いて内視鏡手術等のトレーニングができる環境を備えています。現在では、能登北部・中部の5病院、南加賀の2病院、金沢市医師会、石川県医師会にもテレビ会議システムが設置され、CPDセンターで行うカンファレンスや学術講演会を配信することが可能となっています。

CPDセンターが完成してから間もなく約2年が経とうとしています。これまで何度もテレビ会議やシミュレーターを利用している医師の方々に感想を聞きました。

小児科における テレビ会議システムを用いた症例検討会

小児科では、これまでも症例検討会を公開してきましたが、平日の夕方開催でもあり、能登や加賀地区の関連病院で頑張っている教員や開業の先生方にとっては、参加したくとも困難であるものでありました。

しかし金大病院CPDセンターのテレビ会議システムがこの壁を壊してくれました。毎月第3金曜日の19時から、センターで開催される金沢大学小児科公開症例検討会は、珠洲市総合病院、市立輪島病院、公立能登総合病院、小松市民病院、加賀市民病院とネットワークされ、各病院から高画質のテレビ画面を通して参加可能です。今年度はすでに6回開催され、教室員のみならず参加病院の他科の医師にも参加していただき、議論がさらに深まるというメリットもありました。各病院では近隣の病院やクリニックの先生方にも気軽にご参加いただけますので、ご希望があれば各病院までご連絡ください。

今後さらにテレビ会議システムが拡張され、インターネットを介して北陸のクリニックあるいは自宅から気軽に参加できるようになればと思います。そのためにはまずは続けること、そして参加してよかったと思っただけの内容になるよう教室員一同努力したいと思っています。



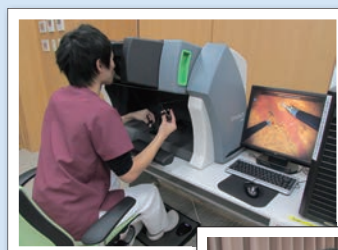
※平成27年1月から石川県医師会館からも参加可能となりました。

泌尿器科における シミュレーター室の活用について

当教室では、前立腺癌に対するロボット支援手術ならびに副腎腫瘍や腎尿管の泌尿器疾患に対する腹腔鏡手術を行っており、CPDセンターの開設当初より手術手技の習得や教育を目的として、シミュレーター室を積極的に活用しています。

ロボット機材であるda Vinci Surgical Systemのシミュレーター(ダビンチトレーナー)はダビンチシステムをリアルに再現しており、とくに縫合針のコントロールや運針のトレーニングに有用であると感じています。また、内視鏡手術シミュレーターには腹腔鏡手術における一般的な基本スキルから腎摘術などの手術モジュールも搭載されており、より効率的に内視鏡手術の技能を習得することが可能です。このような環境を診療時間後や休日にも使用できることは大変有難いと思います。

さらには、これらのシステムを医学部5年生のBSL(Bed Side Learning)の実習にも取り入れ、泌尿器科手術だけではなく外科手術そのものに興味をもっていただけるよう努めており、学生方にも非常に好評と伺っています。



専門看護師・認定看護師の誕生



がん看護専門看護師

東病棟 6階 佐伯 千尋

2014年10月30日、日本看護協会の専門看護師認定審査を受験し、12月4日合格通知が届き、金沢大学附属病院で初めてのがん看護専門看護師誕生となりました。ここまでの道のりの中で受験勉強・仕事・家庭の両立を支えてきたものはやはりがん患者さんの身体的・精神的な苦痛を理解し、患者さんやそのご家族に対してQOLの視点に立った水準の高い看護を提供したいという熱い思いでした。

患者さんはがんではないかと不安を抱きながら受診し、がんと診断されて、治療が始まります。手術療法・化学療法・放射線療法という治療や緩和ケアを受けながら、通勤・通学など社会生活を送ります。病気や治療による身体的な苦痛、不安や恐れなど精神的な苦痛、治療費の負担や仕事上の問題という社会的な苦痛、生きる意味が見出せなくなるなどの苦悩を患者さんは経験します。そしてご家族は患者さんと共に悩み揺らぎます。

がんや治療と共に人生を歩む患者さんにご家族が、その人らしく生き抜くことができるように早期から緩和ケアを行い、支援していきたいと思えます。そして患者さんにご家族を支える医療スタッフのサポートができるよう努めていきます。

集中ケア認定看護師

ICU 瀬戸 乃扶子

平成26年7月、日本看護協会の認定審査に合格し集中ケア認定看護師の資格を取ることができました。集中ケアを必要とする患者さんは生命の危機状態にあり、病状や治療など様々なものから影響を受け全身状態が変化しやすい存在です。また、回復過程によってその予後が大きく影響されるのも特徴です。このような患者さんに関わる看護師として、危機状態からの早期回復と、過酷な治療中でもその人らしさを維持してもらえるように、常に傍にいる看護師の目線から今何が適切かを考え、確実・スピーディに実行に移すことを大切にしていきたいと考えています。また、生命の危機状態の患者さんに関わり続けることは私たち看護師にとって大変なことです。このような中でも病態や心身のメカニズムをよく理解し、その時々適切なケアを提供することを楽しみながら働くことができることも大切にしていきたいと思っています。課題は多いですが、病棟スタッフみんなできよう、自分のできることから少しずつ、楽しく活動していきたいです。



糖尿病看護認定看護師

東病棟 7階 長田 春香

多くの皆様のご協力とご支援のもと、2014年6月22日に認定審査に合格し糖尿病看護認定看護師となりました。現在、20歳以上の4.7人に一人が糖尿病の可能性があり合併症も重症化する中、糖尿病看護に求められる役割の大きさを実感します。また境界型やメタボリックシンドローム、ステロイド治療や化学療法、手術、妊娠などにより血糖コントロールや療養生活が必要な方々も合わせますと、糖尿病看護を必要とする患者さんは大勢いらっしゃいます。

このような中、患者さんにご家族の生活や思いを尊重しながら、特化技術の血糖パターンマネジメントやフットケア、糖尿病ケアシステムの構築を活かして、患者さんがセルフケアを確立できるよう共に考え支援していきたいです。以前フットケアの際に患者さんが、最期まで自分の足で歩くことが希望であり、生きがいの観光ボランティアを続けたいと話されました。糖尿病とともに患者さんにご家族がその人らしく生きていけるよう支援していきたいです。

最後に糖尿病の特徴を踏まえ、様々な専門領域や多職種の方々と連携していきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

医学教育等関係功労者表彰の受賞

検査部の柴山正美主任臨床検査技師が、文部科学省の医学教育等関係功労者表彰を受賞しました。本表彰は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等の補助的業務に関し、顕著な功労のあった方を表彰するものです。同人が永年、金沢大学附属病院検査部で臨床検査に携わり、生化学的検査、生理学的検査、血液学的検査で常に精度の高い検査を遂行していること、平成21年に日本検査血液学会学術賞、認定血液検査技師や日本糖尿病療養指導士の資格を取得し技術の向上に努めていること及び、若手技師の模範となる優れた勤務態度が評価されたものです。



学会賞等の受賞

学会賞等名	所属	氏名	受賞日
第73回日本医学放射線学会総会 教育展示優秀賞	放射線科	小林 聡	平成26年 4月13日
文部科学大臣表彰 科学技術賞	消化器内科	金子 周一	平成26年 4月15日
Scientific Conference of the Korean Society of Lipidology and Atherosclerosis 優秀発表表彰	内分泌・代謝内科	太田 嗣人	平成26年 4月16日
The 9th Cherry Blossom Symposium ポスター賞	検査部	中出 祐介	平成26年 4月18日
石川県病院協会 優秀研究賞	看護部	宮川由香理	平成26年 5月17日
優秀論文表彰	リハビリテーション部	大畠 幸恵	平成26年 5月17日
全国国立大学臨床検査技師会 表彰	検査部	堀田 宏	平成26年 5月30日
石川県臨床衛生検査技師会 役員功労賞	検査部	堀田 宏	平成26年 5月31日
石川県知事賞 医療功労者表彰	検査部	南部 裕子	平成26年 5月31日
石川県医師会医療功労者表彰	薬剤部	谷本 定子	平成26年 7月27日
石川県医師会医療功労者表彰	看護部	坂尾 雅子	平成26年 7月27日
大学発ベンチャー表彰2014 日本ベンチャー学会会長賞	消化器内科	金子 周一	平成26年 9月11日
第30回日本診療放射線技師学術大会 優秀賞	放射線部	峰広 香織	平成26年 9月21日
The 15th Asian Oceanian Congress of Radiology Bronze Award	放射線科	小坂 一斗	平成26年 9月27日
第29回日本糖尿病合併症学会 Young Investigator Award	内分泌・代謝内科	御簾 博文	平成26年10月 3日
日本臨床検査自動化学会 第46回大会 優秀演題賞	検査部	妻屋裕理子	平成26年10月10日
第22回日本消化器関連学会週間(JDDW 2014) 技術奨励賞	肝胆脾・移植外科	牧野 勇	平成26年10月26日
金沢市会表彰(医療従事者)	放射線部	作田 啓太	平成26年11月 1日
金沢市会表彰(医療従事者)	看護部	千代 恵子	平成26年11月 2日
金沢市会表彰(医療従事者)	検査部	前河 晶子	平成26年11月 2日
金沢市医師会金沢医学館記念医学賞	ME機器管理センター	野村 宗生	平成26年11月 2日
金沢市医師会金沢医学館記念医学賞	泌尿器科	泉 浩二	平成26年11月 2日
一般社団法人 日本核医学会 2014年久田賞金賞(Annals of Nuclear Medicine 論文賞)	核医学診療科	岩佐 和夫	平成26年11月 2日
Alcpn Novartis Hida Memorial Award	眼科	若林 大志	平成26年11月 7日
文部科学省 平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰	検査部	横川 英明	平成26年11月13日
第43回医療功労賞	看護部	柴山 正美	平成26年11月20日
第45回日本看護学会優秀発表賞	看護部	福間 明美	平成27年 2月12日
	看護部	多地 綾乃	平成27年 3月予定

看護衣リニューアル

今年度 4月 1日に看護衣が5年ぶりに新しくなりました。デザインはこれまでより動きやすい工夫を取り入れ、後姿もすっきりしました。白衣は半袖と七分袖に、また発汗や汚染を伴う看護ケア時に着用するVネックスクラブを加え、気温や業務内容に応じた選択ができます。静脈注射研修終了認定などのバッジを襟元に留められるようになり、より安全で高度なケアを目指した資格・認定取得が患者さんに分かりやすくなりました。



平成26年度ふれあい看護体験

毎年フローレンス・ナイチンゲールの誕生日5月12日を「看護の日」として、気軽に看護にふれていただける行事が全国各地で行われています。看護師は、患者さんが安心して医療を受けられるように、ご家族共々一番身近なところで手を差し伸べる存在です。看護の日は、人と向き合う姿勢や心を感じたり振り返ったりするきっかけとなるようにと1990年8月に制定されました。本院でも今年度は5月13日(火)に「ふれあい看護体験」を実施し、金沢や能登から高校生6名と一般の方1名を受け入れました。それぞれが病棟で清拭や足浴、血圧測定や車椅子移送などを看護師と一緒に、思いがけない患者さんからの「ありがとう」の言葉に、緊張もほぐれ笑顔で声をかけていました。こうした患者さんとのふれあいに「とても貴重な経験ができてうれしかった」や看護師の仕事を見て「ますます看護師になりたいと思った」と感想を述べていました。また、「ふれあいコンサート」では、当院の看護師が歌やフルート、クラリネット、サクソ、ピアノの演奏、バルーンアートの特技を披露し、ボランティアサークルの方々による幻想的なブラックパネルシアターを患者さんと一緒に鑑賞しました。様々な交流を存分に味わい、楽しい一日を過ごすことができた喜んでいました。



消火技術競技大会

平成26年9月4日、金沢市内のグラウンドで金沢市主催の「平成26年消火技術競技大会」が開催されました。この大会は、個人・チームが消火器や消火栓を使い、初期消火の速さや正確さを競うもので、本院も院内防火意識の高揚のため毎年参加しています。今年は屋内消火栓の部に事務部1チーム(3名1組)と看護部2チームが参加、そして一人操作屋内消火栓の部に看護師2名が参加



ました。選手たちは本番に向け練習を重ねました。

大会当日は晴れ。昨年、一昨年と2年連続雨天中止であったため、今年は待ちに待った大会となりました。選手たちは緊張した面持ちでしたが、本番では素早く消火栓からホースを運び出し、放水。迅速で的確な消火技術を披露しました。その結果、屋内消火栓の部では見事優勝と敢闘賞、一人操作屋内消火栓の部でも敢闘賞を収めました。参加した選手からは、「日頃の練習の成果を発揮できた」、「いざという時は今回練習した技術を生かしたい」といった声が聞かれました。患者さんの安心・安全のため、これからも院内防災意識を高く持っていきましょう！



Kindai Hospital Today vol.17

編集・発行 金沢大学附属病院 病院広報誌編集委員会(事務担当:総務課 調査・広報係)
TEL 076-265-2936 FAX 076-234-4320 皆さまからのおたより、ご意見をお待ちしております